

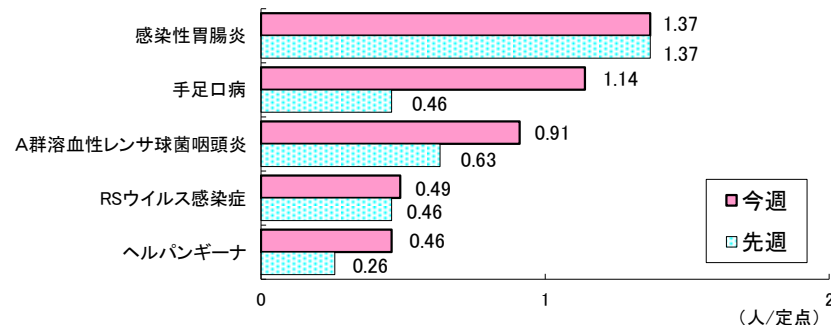


【第43週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で同規模です。保健所別では、秋田市、大館、秋田中央、由利本荘、湯沢で増加、大仙で同規模、北秋田、能代、横手で減少しています。
2. 手足口病は、県全体で約2.5倍に増加しています。保健所別では、大館、北秋田、由利本荘、横手で増加、秋田市、能代、秋田中央で同規模となっています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で44%増加しています。保健所別では、秋田中央、横手、湯沢で増加、由利本荘、大仙で同規模、秋田市、大館で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

(人/定点)

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減	第42週	第43週	増減			
RSウイルス感染症	0.46	0.49	↗	0.29	0.71	↗	0.50	0.50			1.00	↗	1.00		↘	0.50	0.50		0.25		↘	0.75	0.50	↘	0.33	1.00	↗	0.50	0.25	↘
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.11	0.20	↗	0.29	0.71	↗		0.50	↗										0.50		↘									
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	0.91	↗	1.43	0.86	↘	0.50	0.25	↘							2.00	4.25	↗	0.25	0.25		0.25	0.25			1.00	↗		0.75	↗
感染性胃腸炎	1.37	1.37		0.86	1.00	↗	0.50	1.25	↗	3.00	1.50	↘	4.67	3.33	↘	1.75	2.00	↗	0.50	0.75	↗	0.25	0.25		2.00	1.33	↘	1.00	1.75	↗
水痘	0.11	0.14	↗	0.14		↘		0.25	↗							0.33		↘	0.25	0.75	↗							0.25		↘
手足口病	0.46	1.14	↗	0.43	0.43		0.25	4.00	↗		3.00	↗	2.33	2.33		0.25	0.25		0.50	1.00	↗				0.67	1.00	↗			
伝染性紅斑	0.09	0.14	↗				0.50	1.25	↗													0.25		↘						
突発性発しん	0.31	0.14	↘	0.29	0.29		1.00	0.50	↘	1.00		↘	0.33		↘										0.33	0.33		0.25		↘
ヘルパンギーナ	0.26	0.46	↗	0.57	1.43	↗				1.00	0.50	↘	0.33	0.67	↗	0.25		↘					0.50	↗	0.33		↘		0.25	↗
流行性耳下腺炎		0.03	↗																				0.25	↗						
川崎病																														
急性出血性結膜炎	0.14		↘							*	*		*	*		*	*								1.00		↘	*	*	
流行性角結膜炎	0.29	0.43	↗	0.33	1.00	↗				*	*		*	*		*	*		1.00		↘							*	*	
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	2.25	2.63	↗	1.00	2.00	↗				7.00	7.00		1.00	2.00	↗	*	*			2.00	↗	4.00	3.00	↘	2.00	5.00	↗	3.00		↘
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、大館保健所管内から1人、能代保健所管内から1人、報告されました。
- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田市保健所管内から1人、湯沢保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のレジオネラ症が能代保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の梅毒が大仙保健所管内から1人、百日咳が横手保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-42週 全国	秋田	43週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	17404	107	3
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	152	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	3472	50	2
	腸チフス	32		
	パラチフス	19		
四類	E型肝炎	364	3	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	822		
	エキノкокクス症	10		
	黄熱			
	オウム病	6		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	5		
	キャサヌル森林病			
	Q熱	3		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	69		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
ダニ媒介脳炎	1			
炭疽				

類型	疾患名	(人)		
		1週-42週 全国	秋田	43週 秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	100	4	
	デング熱	153		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	252		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	3		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	2		
	マラリア	42		
	野兔病			
	ライム病	12	1	
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽	2			
レジオネラ症	1775	5	1	
レプトスピラ症	26			
ロッキー山紅斑熱				
五類	ア메ーバ赤痢	679	1	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	195	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1705	8	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	73		
	急性脳炎	533	6	
	クリプトスポリジウム症	12		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	171	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	562	5	
	後天性免疫不全症候群	1038		
	ジアルジア症	58	1	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	383	4	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	29		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2550	15	
	水痘(入院例に限る)	345	5	
	先天性風しん症候群			
	梅毒	5532	13	1
	播種性クリプトкокクス症	146	1	
	破傷風	102		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	63		
百日咳	7945	45	1	
風しん	1486	1		
麻しん	239			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	20			

トピック

<11月は薬剤耐性(AMR)対策推進月間です>

1980年代以降、抗菌薬の不適切な使用を背景として、新たな薬剤耐性菌が増加しました。我が国では、2015年5月の世界保健機関(WHO)総会で、薬剤耐性(AMR)に関する国家行動計画の策定が求められたことを受け、厚生労働省において2016年4月に「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2016-2020」が決定されました。「適切な薬剤」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」使用する取組が展開されています。

■情報収集体制と報告数

現在、感染症発生動向調査事業では、全数把握対象疾患として4種類、基幹定点医療機関(全国約500か所の病床数300以上の医療機関)届出対象疾患として3種類の薬剤耐性菌感染症の情報を収集しています(表)。

■予防対策について

薬剤耐性菌だからといって菌の病原性などが強くなっているわけではありませんので、日常生活で過度に心配する必要はありません。しかし、間違った抗菌薬の使い方はかえって薬剤耐性菌を増やす可能性があります。処方された抗菌薬については、医師の指示に従って用法・用量をしっかりと守りましょう。また、普段から手洗い等の衛生管理を心がけておくことは、様々な感染症の予防対策としても大切です。

表 全国の薬剤耐性菌による感染症の報告数の推移(件)

疾患名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年*
○全数把握対象疾患					
・バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0
・バンコマイシン耐性腸球菌感染症	56	66	61	83	63
・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	314*2	1,671	1,573	1,660	1,682
・薬剤耐性アシネトバクター感染症	15*2	38	33	28	19
○基幹定点医療機関届出対象疾患					
・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2,292	2,057	2,017	2,001	1,464
・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18,082	17,057	16,338	16,550	12,141
・薬剤耐性緑膿菌感染症	268	217	157	128	90

*1 全数把握対象疾患は第42週まで、基幹定点医療機関届出対象疾患は第39週まで

*2 2014年9月19日からの報告数

感染症の集団発生報告

かぜ様症状の集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年10月22日
 受付保健所 秋田中央保健所
 施設名称 特別養護老人ホームさくら苑
 有症者数 利用者50名のうち13名
 把握期間 10月19日から10月22日まで

手足口病による集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年10月23日
 受付保健所 大館保健所
 施設名称 わかば保育園
 有症者数 園児51名のうち18名
 把握期間 10月5日から10月23日まで

RSウイルス感染症による集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年10月25日
 受付保健所 大仙保健所
 施設名称 大曲乳児保育園
 有症者数 園児73名のうち14名
 把握期間 10月15日から10月25日まで

ヒトメタニューモウイルス感染症による集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年10月25日
 受付保健所 横手保健所
 施設名称 浅舞感恩講保育園
 有症者数 園児85名のうち11名
 把握期間 10月22日から10月25日まで



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		